令和７年度 社会福祉法人芳春会　事業報告書

令和７年４月１日～令和８年３月３１日

【芳春会　事業状況】

芳春会は、株式会社アニマートより「あさひの家（認知症対応型共同生活介護事業）」の事業を譲り受け、令和７年４月１日より事業を開始しました。それにより、芳春会は障害福祉サービスと介護保険サービスを併せて提供する法人となるため、法人理念を改正し、新たな職員目標を掲げることで新たな体制を構築することになりました。

障害福祉サービス分野においては、利用者の自己決定の尊重および意思決定支援を重視し、アセスメントの充実に取り組んでいます。意思決定に困難を抱える利用者に対しては、支援会議等を通じて多角的な検討を行い、適切な支援の提供に努めました。その結果、利用者の意向を反映した支援計画の作成・実施が進んでいます。

介護保険サービスにおいては、きめ細かなアセスメントに基づきケアプランを作成し、質の高いサービスを提供しています。小規模である特性を生かした柔軟なケアは、利用者のＱＯＬの向上につながっています。また、介護ロボットの導入・活用を進め、職員の身体的負担の軽減や業務効率に取り組んでいます。

職員体制については、働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、各種研修への参加機会を確保し、専門性の向上を図りました。これにより、職員の知識・技術の向上し、専門性を生かしたサービス提供体制につながっています。

ガバナンスの面では、関係法令の遵守および内部体制の整備を進めるとともに、運営の透明性確保に努めました。各種規程の見直しや運営状況の共有を行い、社会福祉法人としての責任ある運営を実施しました。

今後の課題としては、部門間連携のさらなる深化、職員確保および定着の強化等が挙げられます。引き続き、利用者およびご家族の満足度向上を最優先に、質の高いサービスを法人全体で提供できる体制の構築に努めてまいります。

【ウイズ（生活介護事業）】（定員２０名）

令和７年度は、新たに３名の利用者を迎え、１名が退所されたことにより、年度末時点の利用者数は22名となりました。地域からのニーズに応え、安心して継続利用していただける事業所運営に努めました。

利用者一人ひとりの思いや希望を大切にし、意思決定支援の視点を持ちながら日々の支援に取り組みました。個別支援計画会議への本人参加が定着し、利用者自身が意見や希望を伝え支援内容に反映していく機会となりました。

作業活動では、2班体制による作業活動を継続し、それぞれの特性や体調に合わせて無理なく参加できる環境づくりに努めました。また、利用者同士で助け合いながら作業に集中して取り組める座席配置や環境調整を行うとともに、手順や役割が分かりやすいよう視覚的支援を取り入れ、利用者自身で作業の準備や片付けにも取り組めるよう支援しました。

余暇活動では、いけばな教室、絵画教室、運動教室を継続して実施し、利用者が興味や得意

分野を広げられる機会づくりに努めました。音楽療法については講師の都合により実施が困難となりましたが、その代替として年度途中よりよさこいダンス教室を取り入れ、身体を動かす楽しさや仲間と一緒に活動する喜びにつながりました。

また、週間スケジュールに沿ったレクリエーション活動や外出支援を行い、日々の楽しみや社会経験の機会を提供しました。あわせて、地域の清掃活動や地域の方々との交流の機会を設けました。

１．ウイズ利用者数（定員２０名）　※平均年齢26.8歳

男　性	１６名
女　性	６名
合　計	２２名

２．ウイズ利用者障害支援区分　※平均障害支援区分　４．６

区分２以下	０名
区分３	３名
区分４	５名
区分５	１３名
区分６	１名
合　計	２２名

３．ウイズ職員配置

職　名	人　数
管理者（サービス管理責任者　兼務）	１名
生活支援員	５名
看護職員	２名

４．ウイズ年間活動

◎令和６年度の主な行事

４月	・利用者健康診断	＊その他活動
５月	・わくわく生き物ワールド見学 ・消防訓練	・絵画教室（第４金曜） ・運動教室（第３木曜）
６月	・一日レクリエーション (ラウンドワン)※グループ別	・音楽療法(偶数月第１金曜日) ・誕生会（月１回）
８月	・絵画教室見学会	・おやつ作り（月１回）
９月	・利用者、職員健康診断 ・いけばな体験教室 ・クラシックコンサート	・嘱託医師健康診断（月１回） ・竈山神社ボランティア清掃活動（月１回）
１０月	・和歌山市庁舎内授産品販売	＊実習受け入れ
１１月	・消防訓練 ウイズアート工房展	・紀北支援学校、紀伊コスモ支援学校

１２月	・和歌山市庁舎内授産品販売 ・ゆうあいスポーツフェスタ ・避難確保計画訓練 ・クリスマス会	
１月	・初詣(伊太祁曽神社) ・20 歳のお祝い ・未来の匠展	
２月	・むかしは娘チンドンショー鑑賞会 ・和歌山市庁舎内授産品販売	
３月	ウイズアート工房展 in ま～る	

【カノン（就労継続支援Ｂ型事業）】（定員５０名）

令和７年度は、新たに１名の利用者を迎え、１名が退所されたことにより、年度末時点の利用者数は 51 名となりました。利用者さん一人ひとりの障害特性や環境調整を踏まえ、多様な生産活動を提供することで、働くことの意義や達成感を感じられる支援に取り組みました。

日々の作業訓練を通して、基礎的な体力づくりや個々の能力に応じた役割分担を進めた結果、年間目標としていた平均工賃を達成することができました。

農作業では、さつまいも等の農作物に加え、近大 ICT 農法（ゼロアグリ自動制御システム）を導入し、イチゴ栽培に着手しました。農作業は、利用者さんが作業内容を自己選択できる機会となり、普段とは異なる環境のなかで作業に励み、気分転換や意欲向上にもつながったと考えています。令和８年度は、イチゴの販路拡大を進めるとともに、米やレタス等の農作物を計画的に生産することで、さらなる工賃向上につながる体制整備を進めてまいります。

■令和７年度　目標平均工賃 14,100 円に対して実績 16,328 円
・内職作業（自主製品含む）収入実績　9,028,191 円
・その他収入実績　1,205,150 円
■令和８年度　目標平均工賃：16,800 円
・内職作業収入目標：9,300,000 円
・農作業その他収入目標：1,500,000 円
※農作業の収支見込

品目	目標収穫量	販売単価	収入	経費	収支差額
イチゴ	300～350kg (300g/1pack 売り)	900 円 ※冬季	900,000～ 1,050,000 円	690,000 円	210,000～ 360,000 円
米	1,080kg	600～700 円 (1kg)	648,000～ 756,000 円	560,000 円	88,000～ 196,000 円

※イチゴ及び米の収穫量は、気候による変動があります。
販売単価は卸売市場価格により変動します。
主な品目をイチゴと米として収支を見込んでいます。

余暇活動については、創作活動や運動活動、季節行事等を継続的に実施し、利用者さん同士の交流や活動意欲の向上を図りました。これらの活動は令和８年度の事業計画においても継続実施し、心身の健康維持や社会性の向上につながる取り組みとして定着しています。

地域交流については、清掃活動やイベント等を通じて社会との関わりを持つ機会を設け、地域に開かれた事業所づくりに努めました。令和８年度は福祉マルシェへの参加を検討しており、関係機関や地域との連携強化に向けた基盤づくりに努めます。

一方で、利用率向上や安定した通所に関する取り組み、職員の人材育成などについては、今後充実が求められる課題です。また、近年は事業所数の増加に伴い、支援内容や運営体制の質がより求められる状況となっています。そのような中、カノンにおいては、内職作業と農作業の双方を活かした特色ある活動を通じて、利用者さんが自分に合った作業へ主体的に取り組める環境づくりを進めてまいります。

さらに、作業活動だけでなく、地域交流や余暇活動等も含めた総合的な支援を継続することで、安心して通所できる環境整備と工賃向上の両立を図り、利用者さん・ご家族様・関係機関から信頼される「利用価値の高い事業所」を目指して取り組んでまいります。

１．カノン利用者数（定員 50 名）　※平均年齢 31.7 歳

男　性	３４名
女　性	１７名
合　計	５１名

２．カノン利用者障害支援区分

区分なし	１４名
区分１	０名
区分２	７名
区分３	１８名
区分４	８名
区分５	４名
区分６	０名
合　計	５１名

３．カノン職員配置

職　名	人　数
管理者（サービス管理責任者兼務）	１名
生活支援員	７名
職業指導員	３名
目標工賃達成指導員	１名

４．令和７年度　平均工賃額：16,328 円

５．カノン年間活動

◎令和７年度の主な行事

４月	・利用者健康診断	
５月	・スポーツ大会（和歌山県障害児者スポーツセンター体育館） ・消防避難訓練	
８月	・クラシックコンサート	

９月	・さつまいも掘り体験 ・１日レクリエーション （生きてるミュージアム ニフレル）	＊その他活動 ・土曜レク （令和７年７月・８月・10月・11月・12月、令和８年２月・３月実施） ・絵画教室（第４水曜） ・書道教室（奇数月第３金曜） ・運動教室（第２水曜） ・竈山神社ボランティア清掃(月１回) ＊実習受け入れ・見学 ・紀北支援学校 ・紀伊コスモス支援学校 ・和歌山さくら支援学校
１０月	・秋祭り ・和歌山市庁舎内授産品販売	
１１月	・利用者健康診断 ・消防避難訓練 ・ウイズアート工房展 ・ゆうあいスポーツフェスタ	
１２月	・クリスマス会 ・和歌山市庁舎内授産品販売	
１月	・初詣 ・20歳のお祝い ・ボウリング大会	
２月	・和歌山市庁舎内授産品販売 ・防犯訓練	
３月	・ウイズアート工房展 in ま～る	

【和くわく作業所(多機能型／生活介護・就労継続支援Ｂ型事業)】(定員２０名)

◎生活介護事業

・利用者さんの障害特性に合わせ、紙すき、園芸などの作業、創作活動、クッキング、ウォーキングなどの体力づくり、リサイクル活動（紙の杜で換金)、ドライブ、スポレクなどの余暇活動は継続して取り組むことができました。

なかでもクッキングは、普段の月２回のおやつ作り（ミニクッキング）だけでなく、年に２回、昼食作り（カレー、焼きそば）に取り組み、今後も継続よていです。

ドライブは、週１回と土曜開所日に、公園で遊具を楽しんだり（リラックス)、ウォーキングしたり（体力づくり)、コンビニなどで買い物体験、マクドナルドで飲食を楽しむなどに取り組みました。雨や天候が厳しい日は道の駅でおやつを食べて過ごしています。

今年度は、職員がサポートしながら、新たな製品作りを始めました。市役所授産品販売に利用者さんとともに参加し、よい体験ができました。

・１日レクリエーションについては、ハーベストの丘へのバス旅行という形で実施し、１３名（１名が人の多いところは不安感が強く欠席)が参加して無事に楽しむことができました。次回は、貸し切りバスを使わないレクリエーションを検討しています。

・個別外出は、毎月１～２名単位で、利用者さんの希望を取り入れたり、外出に適した行き先、体験を企画しました。普段の集団ではできない各利用者さんのニーズに合った体験ができ、家族さん、利用者さんには好評でした、今後も、外出や社会体験の要望に応え、毎回２～３名のグループ単位で、年２回の機会を作りたいと考えています。

・法人内の他の事業所と比べ行事が少なく、プログラムがマンネリ化しているので、行事の機会を増やしたり、新たなプログラムに取り組むことが課題です。早速、障害児者サポートセンターの体育館を使いスポーツレクを予定しています。

・利用者１４人の合計利用回数は、２７８９人で前年比４７人増でした。

◎就労継続支援Ｂ型事業

・授産内容は、生活雑貨・日用品の作業、医療用具の検品作業（単価が高く、工賃収入の割合が

大きい)、贈答用品の詰め合わせ、公共団体などからの折り込みや郵送物の封入作業、また、自主製品（陶芸製品、木工製品など）の製作、販売を行っています。

・利用者さんの障害特性が多様で身体の不自由な方、メンタルが不安定な方がいたり、また年齢を重ねていたり、作業能力にハンディがある方が多い中で、利用者さんの頑張りと職員が作業をフォローすることで、平均工賃の維持、向上を達成できています。

・単価の高い作業は高い技術が必要で、一部の利用者さんしか取り組めない状況にあります。また、他の作業も補助具を工夫するなどして、みんなの利用者さんが何らかの工程に携わることができるよう取り組んでいきます。

・市役所授産品販売など対面して販売する貴重な機会はローテーションで全員が参加して良い経験になっています。現状は、内職作業が中心となっているため、時間配分に工夫し自主製品を作る時間を作っていきたいと思います。

・７年度は、１日レクリエーションとしてバス旅行を実施することができませんでした。内職作業の納期とレクリエーションの実施日の調整が難しいことと、みんなが共通に楽しめる企画が難しいことが原因でした。８年度は、外出が緊張を伴う利用者に配慮し、できるだけレクの機会を増やすことをめざし、早速外食レクを予定しています。

・作業中心の活動となりましたが、給料を得られる仕組みやお金の大切さなどを学ぶための取り組みとして、工賃支給日の給料の集会を実施し、適時季節の行事の度に、茶話会やミニレクを行いました。また、二十歳を祝う会など開催しています。

・作業をスムーズに実施するため、指先の傷の手当てや排泄、衛生、身だしなみなど必要な日常生活の支援を行っています。また肥満やアトピー、生活習慣病予防としておやつなどを控えるような取り組みも行っています。

・各利用者さんの様々な課題に対応するためグループホーム、支援センター、病院など関係機関と連携を取っています。また、見学や体験は随時受け入れています。
近年、新規に契約したり、相談がある方は、メンタルに障害ある方が多く、事業所を利用できなくなり在宅生活をしている方や、事業所は利用していますが、別の通所先を探している方がほとんどとなっており、地域の受け皿的な存在になっています。

・利用者１０人の合計利用回数は、２１３６人で前年比２５９人減で、前年ほぼ皆勤だった利用者２名が退所したため、利用者数は改善しましたが、利用回数は減少しました。

・令和７年度　平均工賃額：１２，２１６円
※障害基礎年金１級の受給者の割合が５０％を超えるため、２，０００円を加えた額を平均工賃額となります。

１．利用者数（定員２０名）　＊令和８年３月現在

	生活介護事業	就労継続支援Ｂ型事業	合　計
男　性	１２名	４名	１５名
女　性	２名	６名	７名
合　計	１４名	１０名	２２名

２．和くわく作業所利用者障害支援区分

区分	生活介護事業	就労継続支援Ｂ型事業
区分なし	０名	３名
区分１	０名	０名
区分２	０名	３名
区分３	３名	０名
区分４	３名	４名
区分５	６名	０名
区分６	２名	０名
合　計	１４名	１０名

３．和くわく作業所職員配置

職　名	生活介護事業	就労継続支援Ｂ型事業
管　理　者	１名（生活支援員兼務）	
主　　査	１名（生活支援員兼務）	
サービス管理責任者	１名（生活支援員兼務）	
生活支援員	４名	２名
看 護 職 員	１名	
医師（＊嘱託）	１名（生協芦原診療所）	

４．和くわく作業所年間活動

◎令和７年度の主な行事

	生活介護事業	就労継続支援Ｂ型事業
４月		慶哉寺花まつり参加・販売
５月	防災避難訓練（火災）	防災避難訓練（増水／地震･津波）
６月	健康診断	健康診断
８月	ミニ夏まつり	
１０月	芳春会秋祭り（一部利用者参加） 「一日レクリエーション（バス旅行・ハーベストの丘）	芳春会秋祭り（一部利用者参加） 和歌山市庁舎内授産品販売
１１月	防災避難訓練（地震・津波） ゆうあいスポーツフェスタ	防災避難訓練（地震・津波／火災） ゆうあいスポーツフェスタ
１２月	外出（岩出市さぎのせ公園） クリスマス会	和歌山市庁舎内授産品販売
１月	初詣（玉津島神社）	仕事始め（ぜんざいパーティ） 二十歳を祝う会
２月	和歌山市庁舎内授産品販売	和歌山市庁舎内授産品販売

３月	防災避難訓練（地震・津波） 桜花見外出（緑花センター）	
備　考	毎月２回、かたつむりパン工房（作業所）のパン販売 毎月、個別外出（利用者１～２名単位で、適した行き先、体験） 毎月、嘱託医訪問診察 毎月２回、ミニクッキング 毎週、ドライブ（各地公園、道の駅、コンビニ、マクドナルド等）	毎月２回、かたつむりパン工房（作業所）のパン販売 毎月、給料の集会、適時、茶話会・レク（各種行事ごと）など 現場実習、見学（支援学校、支援センター等）

【相談支援事業所　ドマーニ（特定相談支援事業・障害児相談支援事業）】

相談支援事業所ドマーニでは、ウイズ・カノンに通所している利用者様を中心に利用者様・そのご家族様からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、障害福祉サービスの利用支援、権利擁護のために必要な支援を行いました。また、関係機関との連携し、利用者が安心して地域生活を送ることができるように支援しています。

令和７年度当初契約件数４４件に対し期中の契約解除１件、新規契約件数０件となっており、期末の契約件数は４３件です。今後も新規契約の獲得と、きめの細かい計画相談を行っていきます。

職員体制

職　名	人　数
管理者	１名
相談支援専門員	１名

【グループホーム　エール（共同生活援助事業）】（定員１０名）

令和７年度におきましては、利用者さん各自が日々の生活や、レクリエーションを通じ、安心して生活できることを目標としてまいりました。

また将来の地域移行を見据えてひとりひとりが自主性を持ち、一つでも多く出来ることを増やせるように目標を立て、個別の訓練に取り組んできました。

健康面においては、感染症の集団発生は無かったものの、コロナウイルスに感染される方が２名ありました。このほか、体調不良による突然の発熱などが数件ありました。発熱等の症状が見られた場合は、自宅での療養を行っておりましたが、可能な限り事業所にて療養いただき、利用率向上に取り組みたいと考えております。

利用者さんの衛生管理につきましては中央競馬馬主社会福祉財団の助成金を頂き、各棟脱衣室内に新たに洗面台を設置しました。利用者さんは帰宅後自室に入室する前にここで手洗いうがいを行うこととなっています。

また健康を促進する意味で、帰宅後運動のできるようにエアロバイクを設置し活用していただいています。加えてこの春からサッカーボール等による軽運動を実施しています。この取り組みは利用者さんに大変好評で、天気の良い日には１時間程度取り組まれています。

支援面におきましては、日中活動とは違った一面を持つため、独自に外部講師を招き、虐待防止等の研修を行い職員の支援力向上を図ってきました。

８年度におきましても利用者さんやご家族の声に耳を傾け、安心安全に利用していただけ

るよう事業運営を行ってまいります。

1．エール利用者数（エールⅠ定員５名・エールⅡ定員５名）

男　性	５名
女　性	５名
合　計	１０名

2．エール利用者障害支援区分

区分３	８名
区分４	２名
合　計	１０名

3．エール職員配置

職　名	人　数
管理者	１名
サービス管理責任者 （生活支援員兼務）	１名
生活支援員	１名
世話人	７名

4．エール年間活動

◎令和７年度の主な行事・職員研修

４月	・バーベキュー大会
５月	・おもと園施設見学・消防避難訓練
６月	・誕生日会
７月	・職員研修（メンタルヘルス）・卓球大会
８月	・花火大会＆すいか割り
９月	・知福協ＧＨ研修会・外出レク（ヤッホーポイント）・カラオケ大会
１０月	・外出レク（ワールド牧場）
１１月	・消防避難訓練・外出レク（さぎのせ公園） ・外出レク（かもきみの湯）
１２月	・近畿地区ＧＨ研修会 ・クリスマス会・忘年会（和食さと）
１月	・初詣（道成寺）＆新年会（あんちん） ・職員研修会（おもと園杉谷園長招聘）
２月	・豆まき・外出レク（南部梅林） ・地域連携推進会議
３月	・外出レク（豊中つばさ公演）

＊その他活動

・端午の節句やひな祭りなどの年間行事に合わせた季節メニューの食事を提供しました。

・みんなが楽しめる鍋パーティーやたこ焼きパーティーを随時開催しました。

・食後各棟においてカラオケ大会や、ティータイムを開催し皆さんに楽しんでいただきました。

・利用者さんの誕生日月に合わせ誕生日会を開催しました。

・毎週看護師による健康管理と、月一度の訪問歯科受診を実施しています。

【あさひの家（介護予防）認知症対応型共同生活介護】

あさひの家は、ご利用者様の尊厳を守り、家庭的な環境で安心した生活を送っていただくことを最優先としています。

少人数ケア（ユニットケア）の特性を最大限に活用し、きめ細やかな個別支援を実践し、認知症の進行緩和に取り組みしました。

また、地域共生の理念に基づき、地域住民との自然な交流を促進にも取り組みました。

◇利用者の状況（令和８年３月３１日時点）

①利用者数（定員１８名）　※年間利用率９５％　月平均利用者数　１７．１名

男　性	４名
女　性	１４名
合　計	１８名

②利用者介護度　※年間平均介護度　２．６

要介護　１	２名
要介護　２	６名
要介護　３	５名
要介護　４	４名
要介護　５	１名
合　計	１８名

◇職員状況（令和８年３月３１日時点）

職　名	人　数
管理者（兼務）	１名（両棟に配置）
計画作成担当者（管理者と兼務）	１名（両棟に配置）
介護職員	８名以上

（１）経営の安定に向けた取り組みの推進

・目標利用率９５％の達成。

・適切な入居管理と早期対応

待機者の適切な把握と、退去発生時の円滑な入居手続きを意識し、営業活動等の新規入居者獲得に努めました。

（２）ご利用者様一人ひとりに合わせたケアの実践

・「できること」を奪わない自立支援を基本とし、日常生活動作を通じた生活リハビリテーションを実施いたしました。

・食の楽しみを通じた健康維持

四季折々の食材や、出張料理（にぎり寿司・フランス料理）日々の食事に取り入れています。食べる楽しみと喜びを感じていただけるよう取り組むことができました。

（３）リスクマネジメントと安全管理

・転倒防止への取り組み

日常生活における歩行訓練や体操等、筋力低下防止に向けた運動を取り入れ、身体機能の維持向上に取り組みました。

・事故、ヒヤリハットの分析

多角的な原因分析と再発防止策の共有を事業所全体で実施しました。

（4）地域連携・ご家族様との連携

・運営推進会議の実施（２か月に１回）

・ＳＮＳを活用した家族交流

従来の対面での家族交流に加え、ＬＩＮＥやインスタグラムを利用し、画像と動画による近況報告を実施し、離れていても安心感を共有できる体制を整えました。

（5）職員研修と職場環境の整備

・認知症ケア等の研修の実施

研修計画に基づき、認知症ケアの段階的研修（基礎・応用・まとめ）をはじめ、「腰痛予防対策」や「救命救急研修・訓練」など、実技を交えた専門研修により、職員の安全と救命スキルの向上を図りました。

・資格取得支援

無資格者に対する「認知症介護基礎研修」の実施。

国家資格（介護福祉士）取得に対する支援の実施。

（6） 年間行事の実施報告

区分	主な行事内容	内容等
春 （４から６月）	お花見（家族交流） 誕生会 端午の節句 母の日 日帰り旅行（家族交流）他	日帰り旅行は、棟ごとで実施し、ご家族にも参加していただきました。（西棟：白浜、東棟：加太）
夏 （７から９月）	七夕・花火 スイカ割り 流しそうめん 夏祭り（家族交流） 敬老会（家族交流） お月見 他	夏は屋内で過ごすことが多くなるため、少しでも季節を感じることができる行事を実施しました。敬老会は、毎年の恒例行事となっています。
秋 （１０から１２月）	運動会 秋祭り 紅葉ドライブ もちつき大会（地域交流） クリスマス会 忘年会	もちつき大会は、地域の老人会・民生委員の皆様にも好評をいただいています。特に老人会の皆様からは積極的に参加していただいています。
冬 （１から３月）	初詣 新年会 節分 バレンタイン ひな祭り	感染症に留意し、季節行事を実施しています。室内で取り組む活動を中心としています。

【太陽光発電システム事業（収益事業）】

社会福祉法人として環境保全への取り組みを目的としています。節電などの意識が高まっています。

年間発電量と売電金額実績（設置場所：カノン（就労継続支援Ｂ型事業）建物屋根）

年月	発電量（単位：ｋＷｈ）	売電金額（単位：円）
令和６年４月	５，３３２	８２，１１２
令和６年５月	５，７７５	８８，９３５
令和６年６月	４，３９４	６７，６６７
令和６年７月	６，５７５	１０１，２２５
令和６年８月	６，９１２	１０６，４４４
令和６年９月	５，１９８	８０，０４９
令和６年10月	３，９７６	６１，２３０
令和６年11月	３，６５７	５５，３１７
令和６年12月	３，６０３	５５，４８６
令和７年１月	４，１６４	６４，１２５
令和７年２月	４，１１９	６３，４３２
令和７年３月	５，３５２	８２，４２０
合　　計	５９，０５７	９０８，４４２
月　平　均	４，９１２	７５，７０３